

国天然記念物霧ヶ峰植物群落（踊場湿原）モニタリング調査実施について

先の霧ヶ峰火入れ事業に伴い踊場湿原の一部が延焼したところですが、諏訪市教育委員会では文化庁の同意を得て、7月より天然記念物範囲内の植生回復等モニタリング調査を下記のとおり実施することとなりましたので報告します。

— 踊場湿原モニタリング調査実施概要 —

○調査地

霧ヶ峰踊場湿原アシクラ池周辺（国天然記念物 霧ヶ峰湿原植物群落）

○調査理由

平成25年4月28日発生火入れ事故により、踊場湿原東側アシクラ池周辺の約3.5haが延焼し、天然記念物がき損した。延焼によって生長点を損なった植物へのダメージ並びに灰のアルカリ分による湿原への影響が考えられるため、湿原植生への影響や回復状況の客観的把握および水質調査（pH、窒素・リン等）による富栄養化原因の有無の把握を目的としたモニタリング調査を実施する。

○調査者

諏訪市教育委員会 教育長 小島雅則（事務担当 生涯学習課文化財係）

※文化庁の同意を得て、文化財保護法第百三十条及び第百三十一条の規定による「調査及び調査のための必要な措置の施行」として諏訪市教育委員会が申請・許可を行う。（許可日 平成25年7月1日付）

なお、現地調査は市教育委員会より、過去に踊場湿原調査実績のある専門家に依頼した。

【湿原内草原植生】 調査担当者：信州大学名誉教授 土田勝義

【湿原植生調査】 調査担当者：上伊那教育会上伊那郷土研究室 田中 茂

【水質調査】 調査担当者：信州大学理学部教授 戸田任重

○調査期間

平成25年7月1日～3カ年（平成27年度）を予定。

○モニタリング概要

天然記念物内のモニタリングは、春季から秋季にかけて実施する（初年度は許可の日から）。

（各分野調査回数は週1回から時季により月1・2回程度の見込み）

- ・**植生調査**については、焼失された地点の植生について調査し、過去の植生調査結果と比較して検討する。また、継続的に植生調査を行うことによって、本湿原の特徴的な植生がどのように回復していくかを確認する。

天然記念物内の**草原植生**について、延焼地の各所に調査グリッドを設け、その植物、植生の経時的变化をモニターしていく。調査グリッドは1×1m四方を10か所とし、プラスチック製の標識を設置する（調査終了時に撤去）。

湿原植生については調査グリッドは1×2mまたは2×2mを12か所設置し、プラスチック製の標識を設置する（調査終了時に撤去）。谷地坊主及びミズゴケの回復状況の調査並びに群落植生変化の調査を行う。またアシクラ池の水量変化とスゲ類などの湿原植生成長速度の測定も並行して行う。被害状況の把握のため谷地坊主及びミズゴケの焼失深度を測定する。

- ・**水質調査**については、アシクラ池内の採水を行い、水温、EC（電気伝導度）、pH、NO₃（栄養塩）、PO₄（栄養塩）、クロロフィルの調査を行う。

○その他

11月には本年度現地調査の区切となるので、本年分調査結果の報告及び来年度以降の調査方針検討を目的に、諏訪市教育委員会主催による報告・検討会を開催する。

日時：平成25年11月26日（火）午後1：30～ 会場：諏訪市役所201会議室（一般傍聴可）